

ほむ・ほむ通信

No.19
[秋風号]

グループ ほむ・ほむ

めいきん生協

「より多くの人にひろがりを！」

絵本展



▲アフガニスタン写真展



▲平和せんべい
1枚50円

Partnership

生協のユニセフ活動・17

今回はめいきん生協の年間を通じた活動について、総合企画室の脇 千鶴子さんにお話を伺いました。

めいきん生協は、名古屋市中心とした愛知県の西側、尾張地域をエリアとする、組合員22万276人(2002年7月現在)の生協です。1985年からユニセフ支援の取り組みを開始し、共同購入や各店舗の常設募金箱などで募金の協力を行っています。

ユニセフのパネルや資料展示 「あいち・平和のための戦争展」

8月13～17日、「あいち・平和のための戦争展」が愛知県中小企業センターで開かれました。この戦争展は11回目を迎え、平和への思いを託し30以上の市民団体が参加しました。めいきん生協は、アフガニスタンのパネルと平和と寛容の国際絵本展『ハロー・ディア・エネミー!』を紹介しました。お父さんと一緒に絵本を読む小学生、アフガニスタンのパネルをじっと見つめる中学生、夏休みの自由研究のためにと資料を手にとる高校生など...たくさんの人たちがユニセフのコーナーに立ち寄っていました。開催中は組合員が交代で、総勢60人あまりがスタッフとしてお手伝い。来場者の皆さんに熱心に、また明るく説明している姿がとても印象的でした。

1995年から始まったラオス指定募金によって、具体的にユニセフの現地での活動が伝わり、ラオススタディーツアーへの組合員の代表派遣とその後の旺盛な現地報告会の取り組みで、一層組合員のユニセフへの理解が高まりました。2003年2月に計画されているラオス視察にも、めいきん生協から参加準備を進めているところです。

ユニセフ募金贈呈式は、平和活動や国際交流を進める組合員と一緒に毎年3月に開催する「地球まるごとの幸せのつどい」で行っています。また8月に地域で行われる「平和のための戦争展」に参加し、ユニセフの平和資料や地雷のレプリカを展示しています。毎年5,000人くらいの来場者が熱心に展示物を見入って、設置したユニセフ募金箱には、「自宅で貯めていた小銭です」と持ち寄ってくださる方も多く、コーナーとして定着した様子です。

「ふと立ち寄ってくれた皆さんが、ユニセフに関心を持ってくれること、平和への優しい思いを育んでくれること、それが私たちの願いです」。この思いは地域の皆さんに、着実にひろがっていると感じました。

< 福本 >

●この記事に関するお問い合わせは...

めいきん生協 総合企画室 担当/脇 千鶴子さん
TEL 052-703-1501/FAX 052-703-3387

特 集

UNICEF
LEADER
TRAINING

© unicef

ユニセフリーダー研修・交流会

東日本会場(東京) 2002年8月19日(月)~20日(火)

日本生協連がユニセフ支援活動に取り組むようになって、23年になります。そして今年度からの新しい試みとして、それぞれの生協の自主的な活動がより発展できるようにと、日本ユニセフ協会との共催で、ユニセフリーダー研修・交流会が、東西2会場で開かれました。

学習意欲あふれる組合員さん、役職員さんたちは、様々なワークショップでの体験をして、とても有意義な時間を過ごせたようです。東京・大阪いずれの会場も、密度の濃い1泊2日のスケジュールとなりました。

その中でユニセフコソボ事務所教育部長の箱山富美子さんから、コソボの紛争後の復興プログラムについて報告がありました。



西日本会場(大阪) 2002年8月22日(木)~23日(金)

コソボ現地報告

箱山富美子さん(ユニセフコソボ事務所教育部長)

ユニセフは、「子どもの権利条約」と「女性差別撤廃条約」を基盤に、子どもの保護と権利を推進するため、教育、若者の参加、幼児発達のパログラムを実施しています。私は教育のパログラムを担当していますので、教育についてお話しします。

教育での不平等

コソボ人口6%のセルビア系は、初等教育・高等教育において就学率はかなりの高さです。それに対し、90%近くを占めるアルバニア系は、初等教育は100%に近いですが、高等教育を見てみると、女子の就学率が低くなっています。その他の少数民族、クロアチア系、ボスニア系を含む、ロマ、アシュカリヤ、エジプシャンの人たちは、就学率がさらに減少します。そのため、ユニセフの活動の対象は女性とこれらの少数民族となります。

ユニセフの教育プログラム

ユニセフの教育プログラムは、「教育政策と人材養成」「地域・学校をベースにした新しい試み」「学校建設と衛生教育」の3つからなります。その中で、今一番力を入れているのが と です。 は、政府・地方公共団体な

どに教育政策のサポートを行い、人材を養成するプロジェクトを行います。は、地域・学校の人たちとたくさんの新しい試みを行い、よければ全国ベースに広げていきます。ここでは、「地域・学校をベースにした新しい試み」について説明します。

子どもにやさしい学校

全体的に100くらいの学校が、この「子どもにやさしい学校」というプログラムを導入しています。今までは先生が前に立って話し、黒板に書き、それを児童が板書するという形でしたが、児童・生徒主体で授業に参加できるように、先生にトレーニングが行われ、学校で実践されていきました。子どもにやさしい学校では、机の配置もグループごとになっていたりします。授業を受けている子どもたちに聞くと授業が楽しいと言って、児童も積極的に参加しているので活気があります。そのような教育が、今方々で始まっています。

「女子」「識字」「少数民族」の教育

この3つは別なものに見えますが、結びついています。識字教育は婦人が対象ですが、学齢期の女の子たちもたくさん来ています。学校には行きたくない、行けない、けれども知識は身につけたい、字を覚えたい、そういう人たちのかなりの部分が少数民族です。少数民族の教育に取り組んでいたのは、去年まではユニセフだけでした。ロマ、アシュカリアの子どもたちは、昔から学校に行く習慣がなく、親も行かなかったもので、それが当然のこととなっていました。また皆が家を焼き尽くされキャンプ生活になりましたが、キャンプから帰ってきた段階で、子どもたちをどうやって学校へ行かせるかということが問題になりました。地元にあるアルバニア系、セルビア系の学校で受け入れられるかという、心情的にも学力的にも受け入れが難しく、学校に入るのが困難です。そこでユニセフでは、補習を行ったり、地域への情宣活動を行う他、保護者会で両親にもいろいろな活動を行い、子どもたちが学校へ行けるようにします。 <吉永>



▲ワークショップ「宇宙への旅」



▲プロジェクト計画づくり

■リーダー研修・交流会 1泊2日のスケジュール

1日目

13:00 ~ 13:10	オリエンテーション
13:10 ~ 13:30	アイスブレイキング ・世界のことで「こんにちは」 ・ユニセフビンゴ
13:30 ~ 15:00	ユニセフ コソボ現地報告 講師 箱山富美子さん
15:10 ~ 17:00	ワークショップ 講師 箱山富美子さん ・ユニセフの中期戦略(優先課題) ユニセフの現場の視点から プロジェクトを考える
18:00 ~ 19:30	夕食懇談会
19:30 ~ 21:00	箱山さんを囲んでおしゃべりする会

2日目

9:00 ~ 9:30	日本ユニセフ協会&日本生協連からの報告
9:30 ~ 11:00	ワークショップ ・生協よりワークショップの事例紹介 ・寸劇紹介と発表 ・日本ユニセフ協会から 様々なワークショップの紹介
11:10 ~ 12:30	活動交流・グループ発表 テーマ「より良きユニセフ協力活動づくり」 ユニセフ協力活動の報告、ユニセフ協力活動の課題、今後の活動の参考となるアイデアを出し合い、より良きユニセフ協力活動のプランを作ります。

ユニセフリーダー研修・交流会 箱山さんを囲んで おしゃべりする会

〔 8月19日 東日本会場 〕

1日目の研修も順調に進んだユニセフハウスでは、参加者全員でピュッフェスタイルの夕食をいただきました。食後に開かれた「箱山さんを囲んでおしゃべりする会」は夜ということもあり参加は自由でしたが皆さん楽しみにされていたようで、ほぼ全員が参加となりました。

Q&Aのスタイルでおしゃべりが始まりました。

- 箱山さんご自身のことを伺いますが、この仕事に入られたきっかけは何ですか？
- ILO本部など国際機関に勤務しましたが、もっと生のフィールド主体で仕事がしたいと思いユニセフに入りました。スタートはラオスです。
- 外から見た日本はどうですか？
- はがゆいですね。もっと自己主張できる国です。日本にしかできないことを世界に発信してほしいと思います。世界も期待しています。
- いろいろな国で仕事をするときはその国の言葉を使うのですか？
- 基本的には英語か仏語ですが、国にもよります。例えばインドネシアなどでは、この国の方針としてインドネシア語を使います。



- ラオスのあとの任地とその印象を教えてください。
- アルジェリア、スーダン、モーリタニア、現在のコンゴボです。大変な状況の中でも人々の温かさを感じます。社会が豊かになるほど人が冷たくなるような気がします。代償があるなら社会発展などなくとも...と思うこともあります」(皆一様にうなづいてしまいました)。

11月にラオスに行くという参加者がこの国の様子を尋ねました。日本の風習や催事に共通する点があり、親近感が持てたことや、婚姻にまつわる話がありました。「なにぶんにも昔のことなので...」と当時を懐かしむように話されていました。

コンゴボの女性の地位についての話もありました。コンゴボでは、おばあさんになるほど権力を持っているそうです。また女性は口実がないと外に出づらいうので、識字教育の場は女性が外に出る良いきっかけになるようです。

2年前の夏に生協3会場で開催された「ユニセフのつどい」で、箱山さんはモーリタニアの現地報告をされていますが、今回そのお話を再度お願いしました。

風土病の「ギニア虫撲滅プロジェクト」は、飲み水に産みつけられた卵が人体に被害を及ぼす恐ろしい寄生虫を駆除する話です。水を濾す指導をした結果、ギニア虫による被害は減ってきているそうです。もう1つは、遊牧民の定住化による「トイレ普及プロジェクト」の話です。もともとトイレを使う習慣がなかったという話に、まず一同ビックリ。トイレの使い方から指導をしたそうです。参加者の驚きとため息が聞こえるほど、私たちの常識では、計り知れぬ人々の暮らしがそこにあり、「知る」ことが「理解」につながる瞬間です。

現在コンゴボで進められている子どもたちのための平和教育の話では、その指導方法に疑問を持たれた参加者が、何度も箱山さんに問いかける場面もありました。



活動交流レポート「より良きユニセフ協力活動づくり」

各々の活動を報告するだけでなく、「いつも来ない組合員がどうしたら参加してくれるの?」「忙しい今どきの子どもをどうやって引き寄せる?」「募金がどう使われているか伝えることが大切だね」「子どものうちから知ってもらいたい」と、今抱えている課題を出し合ったり、さらに広げるためのアイデアを交換したり...。「学生に関心

を持ってもらうため、大学祭でユニセフ活動をしてもら」のアイデアに、県支部の参加者から「そのときには協力したい」と申し出があったりするひとコマも...。短い時間でしたが、有意義な50分間でした。今後の協力活動のパワーアップが楽しみです。交流会での発言から主なコメントをご紹介します。

< 谷杉 >

いわて生協 環境+ユニセフ活動の企画として、ラブウォークでぶなの原生林探索。	山形県連 ユニセフ委員会があって単協から委員が参加。指定募金1本に集中。	みやぎ生協 くらし・平和・ユニセフとして活動。2月に募金贈呈式。
福島県連 リーダー研修の開催。支部づくり準備中。	東都生協 商品案内にユニセフ協力活動のことを掲載。OCRで募金できます。	東京マイコープ 平和と国際連帯の活動として、募金活動ではユニセフが一番多く集まる。
京都生協 「お年玉募金」贈呈式を毎年開催。5つのブロック持ち回りで企画を。	埼玉大学生協 平和活動の一環として、駅頭での募金活動、学食に募金箱設置。	コープぎふ TVのコープぎふの生活情報コーナーで、ユニセフ活動の紹介もしています。
大阪いずみ市民生協 OCR募金では、毎週常設で募金欄を設けています。	大阪北生協 ラオスタディーツアー参加者による報告会をくり返し行っています。	おかやまコープ 年末のハンド・イン・ハンドに6地域で取り組んでいます。
鳥取県生協 留学生との交流、ネパールやラオスの料理紹介、ユニセフカードの取り扱いなど少人数で頑張っています。	コープかがわ スタディーツアー参加者が4名いるので、学校などで報告しています。	コープくまもと 6月にユニセフ委員会は独立しました。催し物のときにパネル展を開催しています。

「募金」のことが話し合われたとき、コソボの現状を知りました。緊急募金に取り組んでいた2000年まではコソボにたくさんのお金が集まりましたが、2002年は資金不足で厳しいそうです。始終笑みを絶やすことなく語る箱山さんですが、現地では辛く悔しいこともあり、そんなときはこれもひとつの仕事と思い、気持ちを切り替えて立ち直りを図っているそうです。

話題は箱山さんが着ているモーリタニアの衣装にまで及び、なごやかな時間が過ぎました。間もなく再び任地のコソボへ向かう箱山さんに感謝の気持ちをこめて「お元気で」と言ったはずが、つい「ご無事で」になりました。

終了後、話し足りない様子の若者(大学生協)3人がイスを持って箱山さんに駆け寄り、おしゃべり会の二次会が始まりそうな気配でした。

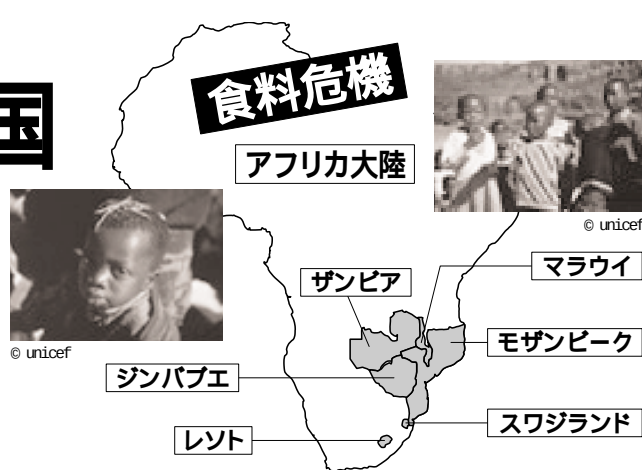
< 浜崎 >



埼玉大学生協の参加者は「一見しただけではとても数年前まで紛争があった地域には見えないけど、少し話してみるとやっぱり...。現実味がありました」と感想を話してくれました。

アフリカ南部6か国

アフリカ南部の6か国(ジンバブエ、マラウイ、ザンビア、モザンビーク、レソト、スワジランド)では、農作物の収穫量が大幅に落ち込み、深刻な食料難が予想されています。食料貯蔵管理が不十分なこともあり、すでに地域全体で770万人が飢餓の危機にさらされ、その数は来年の3月までの間に1,280万人まで増えると考えられています。ジンバブエをはじめとするいくつかの国では、すでに国家災害を発令しています。6月6～7日には、ヨハネスブルクにおいて国連機関、NGO、南部アフリカ開発委員会(SADC)などによる、地域会議が開かれ、今回の食料危機の規模や、人道支援について話し合われました。この会議では、直接的な食料支援のみならず、食料難に付随する、栄養問題、水と衛生、農業復興、HIV/エイズ対策といった食料以外の対策の必要性も確認され、特に弱い立場におかれている子どもたちや女性への支援においてユニセフの役割の重要性が強調されました。 <山本>



ザンビア

• 食料難に瀕している人 230万人

トウモロコシの不作、干ばつが影響。
エイズに苦しむ人も多い。

ジンバブエ

• 食料難に瀕している人 610万人

• 不足している穀物 70万トン

干ばつに加え、農地収用、生産物価格
管理の失敗など政策面での要因

マラウイ

• 食料難に瀕している人 320万人

• 不足している穀物 20万トン

2期続けての不作で食料難に。
エイズ問題も深刻。

アフガニスタンの ワールド・サッカー・デー



Say Yes for Children
World Football Day

2002年FIFA ワールドカップ™を子どもたちのために捧げることにしたユニセフとFIFA(国際サッカー連盟)との提携により、6月19日が「子どものためのワールド・サッカー・デー」に決まりました。

この日を記念して、アフガニスタンの首都カブールでは、子どもたちのサッカートーナメントが開催され、出場する2つのチームと約100人のサポーターがカブールのオリンピック・スタジアムに集まりました。「ゴール」というアイルランドのNGOによって企画されたこのトーナメントは、アフガニスタンの若者たちがサッカーを通じてともに平和に生きることの大切さ、相互理解の必要性、そして競い合うことと対立することの違いを理解することを目的としています。試合は真剣そのもので、両チームのエネルギーが続きましたが、雰囲気は友好的で試合が終わった後にはチームのメンバーが手をつないで一斉に声をあげるという場面も見られました。

カブールのオリンピック・スタジアムで、タリバン政権による死刑執行や公開処刑が行われていたときからまだ1年も経っていません。しかし、この日、そうした恐怖の舞台が「チームワークと友好的な競技、そして友情の舞台」にと生まれ変わったのです。スタジアムから去っていく両チームのまわりには、笑顔があふれていました。 <小林>

モザンビーク

- 食料難に瀕している人 50万人
 - 不足している穀物 6.2万トン
- 干ばつと洪水の被害。

レソト

- 食料難に瀕している人 44.5万人
 - 不足している穀物 5万トン
- 干ばつ、害虫の被害に加え、
土壌管理が不十分なため

スワジランド

- 食料難に瀕している人 23万人
 - 不足している穀物 1.2万トン
- 日照りが続き、農作物に影響。
不作で食料危機に。

ユニセフ募金の種類

一般募金

通常の口座にお寄せいただいた募金やカードの利用代金は、用途を指定しない募金として、ユニセフ・ニューヨーク本部に拠出されます。そして162の国と地域で実施されるユニセフの支援事業に配分され、保健・栄養・教育・水と衛生・生活改善・緊急救援など、幅広い子どもたちのための支援に生かされます。

緊急募金

自然災害や戦争・国内紛争などにより、緊急救援が必要になった場合に日本ユニセフ協会が緊急アピールを出して協力をお願いします。お寄せいただいた募金はユニセフ・ニューヨーク本部を経由して、緊急事態に直面した国の子どもと女性のためのユニセフの緊急支援に役立てられます。2001年は、アフガニスタン、北東アフリカ、インド地震などにご協力いただきました。

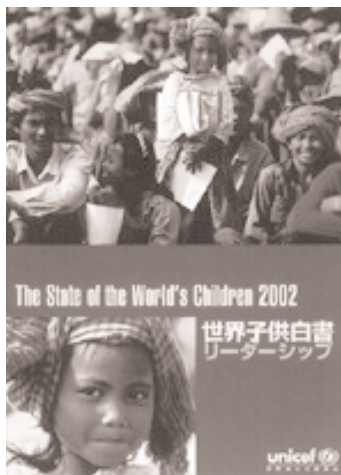
指定募金

支援する国とプロジェクトを支援者が選び、募金する方法です。募金の使途やプロジェクトの成果がわかりやすく、ユニセフの事業と募金の流れを具体的にかつ身近に知ることができます。生活協同組合からは、複数の生協が共同して1995年よりベトナム・ラオス・インドの「女性支援事業」にご協力いただいています。

特に状況の悪化している「ジンバブエ」「ザンビア」「マラウイ」の3か国に、5月末までに緊急支援を実施しました。また今後の緊急支援を確定するため、南部アフリカ諸国の子どもと女性の状況とニーズを調査中です。

もうお読みになりましたか？

「世界子供白書2002」 リーダーシップ



A4判 137頁
1部無料 2冊目から240円

毎年ユニセフが出している「世界子供白書」の日本語版が、日本ユニセフ協会により発行されました。世界の子どもたちを取り巻く様々な問題を、その年のテーマに沿って詳しく調査・分析し、対策を考えています。これまでも「児童労働」「教育」「乳幼児ケア」などが報告されています。

1990年に開かれた「子どものための世界サミット」から10年、その成果と今後を話し合った本年5月の「国連子ども特別総会」では、新たな目標が決められました。しかし、大人たちがやり残した課題は多く、今度こそ子どもたちとの約束は破れません。そこでユニセフは世界のリーダーたちに強いリーダーシップを求めています。責任をもっとも重く担うべきなのは国家元首であり政府の代表なのです。あらゆる方面からのコミットメントと行動を求め、特に子どもたちや青少年が自分たちに影響を及ぼす決定に参加できるようにすることが必要と「白書」は伝えています。

「子どもたちのためのリーダーたち」として、子どもたちと一緒に世界を変えてきた29人のリーダーが紹介されています。その中にはハーレムの路上で育った人や南アフリカ最年少エイズ活動家ンコシ・ジョンソンくん(2001年6月死亡)もいます。中学生以上向け資料として作られていますので幅広く大勢の方に読んでいただけます。

< 浜崎 >

□お申し込み 日本ユニセフ協会 TEL 03-5789-2012 / FAX 03-5789-2032

探 険
世界のくらし
USA

Seattle & Bothell

藤森由香さん(中2)

ゆかたを着てお茶のお点前を披露する由香さん。小さな文化交流を通して、外国の人とのふれあいを体験しました。



パークランド一家。とても親切にしてもらいました。

Good for health and beauty



ホームステイの思い出

市が行う海外派遣事業の中学生海外派遣生として、この夏シアトルとその郊外のボッセル市に行き、ホームステイをしました。日中はカラリとして爽やかで、緯度が高いため夜は9時過ぎまで明るいので、外でいろいろな活動をする事ができます。夏といっても、日本のようなムシムシとした熱気はなく、ちょっと曇ると肌寒いくら

いですが、みんな「It's hot!」と言って近くの湖で泳いだりしているのには驚きました。

ホストファミリー宅では、天ぷらや味噌汁といった日本食を紹介し、フリッターやアメリカンライスと一緒に作ったりして食の交歓を楽しみました。また、ゆかたを着て抹茶のお点前を披露すると、「Oh, It's bitter(苦いわ)」と言いながら、「Good for health and beauty(美容と健康にいいわ)」と喜んでくれました。

いつまでも明るい外のテラスで食事をとったり、休日は家族揃って遠出をしたり、キャンプに出かけたり…。塾や家庭教師との勉強に追われている多くの派遣生の生活と、かなりのギャップを感じた人がいたようです。高等教育の段階に進めば厳しい研鑽や競争も多くあるでしょうが、幼少期からの成長過程で、時間的にも精神的にもゆったりと過ごし、家族の一員、地域社会での一員として活動することは、とても大切なことだと思います。

今回のホームステイは短い期間、限られた地域でしたが、自然でおおらかなホスピタリティ、アメリカ社会の奥深さ、懐の大きさといったものを肌で感じることできた有意義なものでした。

< 藤森 >



山のように積み上げられた魚。注文があると奥のレジに投げて渡す店員さん。ジョークを交えた呼び込みも陽気で、たくさん集まってくるお客さんの笑いが絶えません。

ユニセフこんなこと知りたい

ユニセフ親善大使



バンラデシュの子どもたちと。
故オードリー・ヘップバーン。

2000年10月、ニューヨークで開かれた国連支援著名人の会合で集まったユニセフの親善大使、特別代表、スポークスパーソン。前列左からユッサー・ンドゥール、ミア・ファロ、スーザン・サラドン、サー・ピーター・ユスチノフ、黒柳徹子、ハリー・ベラフォンテ、後列左からナナ・ムスクーリ、ヨハン・オラフ・コス、ベンデラ・トメセン。

黒柳徹子さんがユニセフ親善大使であることはよく知られていますが、他にどんな方たちがいて、どんな活動をしているのでしょうか。

ユニセフには現在6人の親善大使がいます。親善大使は、子どもの福祉や人道問題に関心を持つ著名人の中から、開発途上国の子どもたちの代弁者として、ユニセフ事務局長が任命する、年俸1ドルの大使です。

第1号は、アメリカのコメディアンであるダニー・ケイ。それ以来、彼も含めて8人が親善大使としてユニセフ支援のため、様々な活動をしてきました。

1953	ダニー・ケイ（米、俳優）
1968	ピーター・ユスチノフ（英、映画俳優）
1980	リブ・ウルマン（ノルウェー、女優）
1984	黒柳徹子（日、女優・テレビパーソナリティ）
1987	ハリー・ベラフォンテ（米、歌手）
1987	ロード・リチャード・アッテンボロー（英、映画監督）
1988	オードリー・ヘップバーン（英、女優）
1999	ロジャー・ムーア（英、俳優）

亡くなったダニー・ケイとオードリー・ヘップバーンを除く6人は、現在もそれぞれの立場で活動をしています。

しかし、ユニセフのスポークスパーソンは親善大使の方たちだけではありません。スポーツや芸術など各方面で活躍されている人たちが、特別代表という形でユニセフを支援しています。

今回は、6月のサッカーワールドカップで来日したユニセフ親善大使ロジャー・ムーアの活動を紹介します。

1980年代初めに、ユニセフ米国国内委員会のためにラジオでユニセフカードの販売促進を支援したことから始まり、1991年には、ユニセフ映画芸術特別代表に任命されました。多くの開発途上国を訪問して、大統領や政府関係者と子どもの問題を討議しています。また、キワニス・インターナショナル(NGO)のヨウ素欠乏症追放キャンペーンの名誉会長としての活動を通して、ユニセフの支援も行っています。

来日した際には新聞・テレビの取材だけでなく、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンと小学校を訪問したり、アフガン難民の子どもたちにサッカーボールを贈る運動に取り組む神戸の女子中学生たちと交流しました。



来日したロジャー・ムーア ユニセフ親善大使。
神戸の女子サッカーチーム「神戸エンジェル」と交流。

KID'S ROOM

5月8日～

ニューヨークでは
国連子ども特別総会が
開催されています



ニューヨークかあ…
行ってみたいなあ…



ポム！おねがい

センちゃんとブウちゃんは、ポムにニューヨークに連れて行ってほしいとお願いしました。

「子どもにふさわしい世界」の巻

空飛ぶ魔法のほうきポムにまたがり、
2人はあっという間に
ニューヨークに到着しました。



会議では子どもたちが
熱心に議論して
いました。



感動!!



「子どもにふさわしい世界」を実現する
ために世界から集まった子どもたちの
代表が、自らの意見をしっかりと主張
する姿に2人は感動しました。

パレードに参加したセンちゃんとブウちゃん



日本の子どもたちにも、世界の様々な
問題について考えたり話し合ったりする
ことを広げていこうと2人は思いました。

センちゃん和プウちゃんが出会った子どもたちには、どんな権利が関係あるのでしょうか...

子どもの権利条約

第12条「意見を表す権利」

子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利を持っています。その意見は、子どもの発達に応じて、十分考慮されなければなりません。

第13条「表現の自由」

子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利を持っています。ただし、他の人に迷惑をかけてはなりません。

日本ユニセフ協会 訳

ユニセフは、国連子ども特別総会開幕直前の3日間、子どもたちによる「子どもフォーラム」開催を支援しました。世界153か国から404名(女子241名、男子163名)の子どもが集まり、司会も子ども、出席者も子ども、最初のゲストスピーカーを除き大人をすべてシャットアウトして、子どもたちだけの討議を行いました。

そして、5月8日には、「子どもフォーラム」に参加した子どものスピーチ「A World Fit for Us(私たちにふさわしい世界)」によって、国連子ども特別総会が始まったのです。

国連子ども特別総会最終採択文書

"A World Fit for Children" [子どもにふさわしい世界]

2002年5月8日から10日まで開催された「国連子ども特別総会」は、山あり谷ありの3日間の討議を経て、最終文書「A World Fit for Children(子どもにふさわしい世界)」を採択して閉幕しました。

この最終文書では冒頭の宣言文で、「子どもにふさわしい世界」を実現するために、子どもたちを最優先に考え、貧困を撲滅し、子どもたちの教育を広め、危害や搾取から保護していくことなどを呼びかけています。また、「子どものための世界サミット」の10年後の進捗状況について評価し、教訓をまとめ、「健康分野」「教育分野」「虐待・搾取・暴力分野」「HIV/エイズ分野」の4つの分野で21の具体的な活動目標を定めています。いずれも行動計画が対象としている2010年までの達成を目指していますが、特に達成期間を定めたものもあります(下表参照)。

この最終文書により、「子どもにふさわしい世界」の実現のため、2010年を目標として真剣に取り組むべき課題が提示されましたが、今はまだスタートラインに立ったばかりです。文書には課題実現のために、子どもたちの声に耳を傾け、子どもたちの主体的な参加が重要であることも明示されています。また、家族、NGO、企業、マスメディアなどの果たす役割、そして、国連機関、多国間組織といった地方組織、国際組織のパートナーシップの必要性についても記されています。 <尾澤>

健康分野	乳幼児死亡率と5歳未満死亡率を2010年までに1/3減らし、2015年までに2/3減らす 妊産婦死亡率を2010年までに1/3削減し、2015年までに3/4減らす 基礎的な保健サービスへのアクセスを2015年までに確保する
教育分野	2010年までに学校に行けない就学年齢児童の数を半数に減らす 2005年までに初等及び中等教育での男女の不平等を改善し、2015年までにその平等を実現する 2010年までに成人、特に女性の識字率を50%改善する
HIV/エイズ分野	2003年までに国際的に合意された目標を実現するための、達成期限を含む国内目標を設定する HIVに感染している乳幼児の割合を2005年までに20%、2010年までに50%削減する HIV/エイズに感染したり、その被害の影響を受けた子どもや孤児を支援するための、政府、地域社会、家族の能力向上のための国別政策・戦略を2003年までに作成し、2005年までに実施する

特に期限が明記された 目標の内容

国連という大きな舞台で採択された文書ですが、課題実行のための手段や働きかけについて、私たちの身近な生活に落としこんで記述されている部分もあり、私たち自身も主体的な参加者だと感じさせられる内容でした。文書の日本語版訳は、日本ユニセフ協会のホームページに掲載されていますので、興味ある方は読んでみてください。



© unicef

詳しくは日本ユニセフ協会ホームページをご覧ください <http://www.unicef.or.jp>

「ユニセフ・アフガニスタン写真展」 貸出セットのご案内

東西の文化が交わる場所として古くから栄えてきたアフガニスタンは、20年以上に及ぶ紛争と3年続きの大干ばつに加え、2001年9月に起きた米国同時多発テロ以降の紛争により、国土のほとんどが廃墟と化しました。日本をはじめ世界各地から寄せられた募金により、今回の危機においてもユニセフは果敢に緊急支援に取り組んできました。アフガニスタンの子どもたちへのご支援に厚く感謝いたします。

日本ユニセフ協会では、ユニセフアフガン緊急支援にご協力をいただいた皆様に広くご活用いただけるよう、アフガン写真展の貸出セットを作成しました。写真展開催に関心をお持ちでしたら、開催要項をお送りしますので、お問い合わせください。

- 名 称 『危機の中の子どもたち
ユニセフ・アフガニスタン写真展』
- 主 催 各地の実施団体と、(財)日本ユニセフ協会の共催とします。
- 開催期間 原則として1週間以内とします。
- 展 示 物 パネル34点
支援物資 7種類
(毛布、栄養補助食品、経口補水塩など)

●この記事に関するお問い合わせは...

日本ユニセフ協会 協力事業部 アフガニスタン写真展担当
TEL 03-5789-2012 / FAX 03-5789-2032

第24回ユニセフ ハンド・イン・ハンド 12月23日(祝)全国一斉行動日

世界の子どもの生命と健康を守るために、ボランティアとして、全国で街頭や身の回りで募金協力を呼びかけます。12月23日に都合がつかない場合は、12月の別の日に実施することもできます。活動は1日だけでなく、何日行ってもかまいません。募金活動をしていただく際は、日本ユニセフ協会へ事前にお申し込みください。お申し込みは、12月10日(火)必着でお願いします。

おたより

ユニセフ学習会

アイコーブ 森 和泉さん



アイコーブユニセフグループでは、夏の企画として「ユニセフ学習会」を行っています。毎年開催地区を変えて、たくさん子どもたちに学習のチャンスを持ってもらいたいと考えています。写真は今年の学習会の様子です。日本ユニセフ協会より職員の方を講師として招き、経口補水塩を実際につったり、水がめや地雷のレプリカ、子どもの権利条約カードなどを使って、参加者にわかりやすく解説していただきました。私たちも、世界を取り巻く諸問題に対する理解の輪を少しずつでも広げていけるよう、これからも地道な活動を続けていきたいと考えています。

学習会に参加した中学2年生が、アンケートにとっても素直な感想を書いたもので、ご紹介したいと思います。

今回の学習会で感じたのは、「すべての子どもにたくさんの権利があるのだなあ」ということです。権利についてこれまで知らなかったことを勉強できたと思いました。権利条約によって、難民の子どもたちが1日も早く安心して暮らせるように、自分にできることをしたいと思いました。

『ぼむぼむ通信』編集ボランティア募集

■お問い合わせ 日本ユニセフ協会 協力事業部 生協担当
TEL 03-5789-2012 / FAX 03-5789-2032

ユニセフ*コープ ネットワーク ぼむ・ぼむ通信

No.19 [秋風号]

2002年10月1日発行

編 集 グループ ぼむ・ぼむ

(生協組合員ボランティア)
スタッフ・編集 / 尾澤・谷村・福本・
藤森・松本・山本・藤田
イラスト / 鮎沢

発 行 財団法人日本ユニセフ協会 協力事業部
〒108-8607
東京都港区高輪4-6-12

T E L 03-5789-2012

F A X 03-5789-2032

ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

編集後記

今年になって何回か研修会などに参加させていただき、ユニセフ活動に携わっている生協の皆さんと一緒に、ワークショップをしたり、情報交換したりする機会がありました。作っている人の顔が見える、読んでいる人の顔が見える通信っていいなあって思いませんか？皆さんの声を紙面に活かしていきたいと思うので、ご意見、ご感想をお寄せください。(小澤)

今回より編集スタッフに加わせていただくことになりました。取材の初仕事は、リーダー研修会です。住んでいる地域や所属する生協が違っても、「ユニセフ協力」という共通のテ

ーマは、あっという間に人と人を結びつけてしまふのだなあ～と実感!!それを紙上で実現するのが、この「ぼむぼむ通信」だと思っています。どうぞよろしく。(谷村)

ぼむぼむNo.4から関わってきて早3年...あっという間でした。生協の組合員ボランティアさんに支えられ、みんなで作ってきた「ぼむぼむ」の担当から離れることになりました。ユニセフ協会職員として、編集作業に関わることができて、本当に充実した日々でした。皆様、これからも「ぼむぼむ」をご愛読ください。編集ボランティア、おたよりはいつでもお気軽にどうぞ。(藤田)